



## 今月のトピック

## This month's main topics

# 「社会彫刻」と寺山修司に感化されて 屋台の青空図書館をやってみた！

一箱本棚オーナー制の図書館をつくるのに先駆けて、去年の3月から建設予定地の駐車場に屋台を出して、青空図書館を開きました。図書館なので、貸し出した本を返してもらい必要があります。道行く人に本を貸したら、インスタで屋台を出す日を確認してもらい、タイミングの合う時に返してもらおうというシステムにしました。貸した本には、ここで借りたことがわかるように、うちの猫こまちのシールを貼って貸し出しました。

この青空図書館をやるうと思ったのは、一昨年に受けた「大家の学校」の「集中ゼミナール」最終発表で、講師の安藤勝信さんから「社会彫刻」という言葉を教えてもらったことがきっかけです。

「社会彫刻」とは「誰もが自らの創造力によって芸術家になる」と考えるドイツのヨーゼフ・ボイスが提唱した理論です。社会的な目的に向かって創造性を発揮することであれば、絵画や美術だけでなく、教育、政治、宗教、環境保護活動なども、広い意味での芸術活動・芸術作品であるという考え方です。

これは、僕が学生時代から好きだった劇作家の寺山修司にも通じる思想です。寺山は著書『書を捨てよ、町に出よう』で、まちへ出て自分のやりたいことをやってみよう若者たちを挑発し、世の中の凝り固まった価値観に揺さぶりをかけた不世出のアジテーターでした。市街劇「ノック」では阿佐ヶ谷付近のまち中で30時間にわたり同時多発的に劇が発生し、観客は受け取った地図を手にまちを歩きながら上演を“体験”するという斬新なもので、日常と虚構を融合させるような試みでした。

かつて寺山に感化された僕は、「社会芸術」という概念を知って、まちに出て本の貸し出しをやってみることにしました。

そこで参考にしたのが、田中元子さんの『マイパブリックとグランドレベル』と、NHKで見たミニドキュメンタリー「私と川の図書館と」の二つです（裏面 Books 参照）。田中元子さんの屋台と多摩川河川敷での図書館から思いついたのが、屋台の青空図書館でした。話せるシェア本屋とまり木のジミーさんにその構想を話したところ、かつて松竹大船撮影所で大道具さんをやっていた木村朋道さんを紹介してもらいました。

木村さんは駐車場に屋台を出したところをイメージして、屋

台の大きさや屋根の形などを練り上げてくれて、素敵な屋台ができました。

そして、2025年3月2日に青空図書館がオープンしました。その様子はnoteにも書いたのですが、よろしければ裏面のQRコードからどうぞ。3カ月の間、毎週、屋台を出し続けて、そこで出会った人たちをお誘いして6月には青空古本市を2度開催。古本市はささやかな規模ながらも、本が好きな人たちが集う楽しい場になったと思います。

青空図書館や古本市をやってみて、この通りを行き交う人々のなかから本好きな人たちが立ち寄ってくれて、多くの方々と知り合うことができました。まちに出てみることで、自分で何かやってみる楽しさを実感した4カ月の出来事でした。

## 今月のお知らせ

This month's news



## 上棟式を行いました

2月22日(日)の「ねこの日」、季節外れの暖かさのなか、無事に上棟イベントが終了しました。入居者さんの募集も始まり、これから毎月1回内覧会を実施していきます。3月15日(日)、4月12日(日)、5月24日(日)、6月21日(日)、7月12日(日)の、それぞれ午前10時から内覧会を予定しています。

# 「ホンとネコの居場所」

## オーナーが語る

### 本や猫や映画やあれこれ

Owner's voice

Books

no.06

## 青空図書館のもとになった まちと彼女の二つの物語

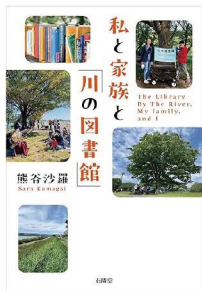
「建築コミュニケーター」という肩書きを持つ田中元子さんが、自ら始めたまちづくりの試みの数々を綴った奮闘記が『マイパブリックとグランドレベル』です。「グランドレベル」(地階・地上)をパブリックとプライベートの交差点と捉えて、街角にベンチを増やす「JAPAN BENCH PROJECT」を展開したり、遊休地を私設公園にしたりと、パワフルにまちを元気にする元子さんの出発点となったのがパーソナル屋台です。社会や世の中に貢献できる趣味として、さまざまな場所に組み立て式の屋台を出して知らない人たちにコーヒーをふるまいました。

そんな本を読んだ直後に、NHKで見たのがミニドキュメンタリー「私と川の図書館と」でした。高校生の熊谷沙羅さんが、多摩川の河川敷で日曜日に家から本を運んで「川の図書館」を開いた日々のお話です。毎週、河川敷にたくさんの方が集まって、沙羅さんを中心にして、近所の人たちのあたたかい交流の場が生まれていました(この時点ではまだ本にはなっていないで、2025年8月に『私と家族と「川の図書館」』は発売されました)。

この二つが響き合うように思い浮かんだ、というかほとんどこの2人のアイデアの合わせ技で生まれたのが、屋台を出しての青空図書館でした。



田中元子  
『マイパブリックとグランドレベル』



熊谷沙羅  
『私と家族と「川の図書館」』

Movies

no.03

## 今月の映画原作本 「木挽町のあだ討ち」

舞台は「忠義」や「孝行」という価値観のうえに、“あだ討ち”が認められていた江戸時代。ある雪の夜、木挽町の芝居小屋の裏手で、美しい若衆・菊之助が見事、父の仇討ちを成し遂げます。2年後、菊之助の縁者という侍が仇討ちの顛末を知りたいと、芝居小屋を訪れました。最後に明らかになる真相は、現代に生きる我々にも静かで温かい感動を呼び起こすでしょう。

文藝春秋社が実質的に運営する直木賞と新潮社が創設した山本周五郎賞。新人・中堅作家によるエンターテインメント作品を対象とする2大文学賞で、これまでW受賞した作品は熊谷達也『邂逅の森』、佐藤究『テスカトリポカ』と今作品だけです。

## Official WebSite & SNS

### ウェブ情報のご案内

WebSite Information



#### 公式サイト

『ホンとネコの居場所』の公式サイトです。



#### Instagram

イベントの開催、本の紹介、現場の様子などを発信中。



#### note (オーナー)

オーナーのnoteです。本や猫などについて書いております。